

広島県立広島叡智学園中学校・高等学校 令和7年度第2回学校運営協議会の会議録

次のとおり、本校の学校運営協議会を開催した。

開催日時	令和7年10月21日（火） 午前10時30分～午後0時	開催場所	会議室（対面及びオンライン）
出席委員	谷川正芳氏（大崎上島町長） 森下秀月氏（大崎上島町商工会事務局長） 田頭吉一氏（国立大学法人長崎大学事務局長・理事）（オンライン） 草原和博氏（広島大学大学院人間社会科学研究科教授） 水ノ上貴史氏（本校PTA会長） 吉村 薫（本校校長）		
会議の概要	○ 学校経営計画についての説明 本校から、令和7年度学校経営計画に基づく上半期の取組及び下半期の取組における重点課題等について説明を行った。 ○ 委員からの質問・意見 質問 ・ リーダーシップに関しては、自分自身についてだけではなく、他の生徒について評価するアンケートも実施しているのか。 →学校の回答：現在実施しているアンケートにおいても、他の生徒について評価する項目は設けており、今後実施するアンケートにおいては、リーダーシップに限らず、他の生徒について評価する項目をより多く設けることとしている。 ・ リーダーシップの有無は、自分自身ではなく第三者と社会が評価するものであり、かつ、リーダーシップとフォロワーシップは表裏一体でもある。学校経営計画においては、このような視点に立った自己評価をしていただきたい。 →学校の回答：リーダーシップとは何かということについて、生徒には定期的に問いかけをしているが、生徒は表面的に理解をしてしまう面もある。日常生活の中で、色々な側面があるということに気付けるような指導をしていきたい。 ・ そもそも、リーダーシップとフォロワーシップに上下の関係があるかのような理解の下で学校経営計画の自己評価がされているように感じられる。協働的に組織を動かせることこそが大切であり、生徒には、そのような視点で問いかけをしてほしい。 →学校の回答：リーダーとリーダーシップ、フォロワーとフォロワーシップ、これらの言葉の意味とそれぞれの立場における役割については、生徒だけではなく教員にも改めて、より理解が深まるような説明をしていきたい。 ・ 本校に限ったことではなく一般的に、教員には実社会での経験が不足しており、このために適切な進路指導ができないということもあるようだが、例えば、教員以外の外部の者が生徒の面談を行うといったことも必要ではないか。 →学校の回答：本校においては、他の学校と比較すると、外部の力を借りる機会は多いように思うが、日常の面談において教員以外の力を借りるなど、様々な場面で、外部の力も借りて進路指導等に当たっていくことを意識したい。 ・ 国際バカロレア認定校として、持続可能な体制を維持していく必要があると考えられるが、研修については、どの程度体系的かつ計画的な仕組みが構築されているのか。		

	→学校の回答：コーディネーターが自ら研修を実施するのみではなく、各教員の強みを生かせるよう、内容に応じて役割分担をする形で研修を実施している。一方で、本校での所属年数等に対応した研修の体系性については、現時点では十分ではない面もある。 ・ 勤務時間内でこれだけの業務を完結させるのはハードなようにも感じるが、いわゆる「サービス残業」は発生していないのか。 →学校の回答：本校では、ＩＣカードによって入退校時間を把握・管理しており、校内での「サービス残業」はない。引き続き、勤務時間の縮減による「働きやすさ」だけでなく、「働きがい」を感じられる業務環境を整えていきたい。 ・ 睡眠などに関して、「セルフマネジメント」という面が過度に意識されることで、うまく「マネジメント」ができないとき、生徒が自身をマイナス評価してしまうといったことがないように注意していただきたい。 →学校の回答：アンケート結果によると、多くの生徒が睡眠の重要性については意識しているが、様々な要因によって十分な睡眠の時間と質を確保できていない者も一部おり、教員とだけではなく、生徒同士でも睡眠の重要性についても考える機会を持てるようにと考えている。 ・ 高等学校第３学年は最終試験の受験を控えており、学校としては２年目となるが、昨年度との違いについてはどのように考えているか。 →学校の回答：第１期生と第２期生ではいわゆる学年のカラーの違いもあり、第２期生の良さを生かしながら最終試験に向かっていけるよう、必要な支援をしている。 意見 ・ 学校だけではなく、地域やＰＴＡも含めて生徒を育てていける仕組みを共に作っていければと考えている。 ・ 大学はＤＰ生に対して、英語によるコミュニケーションの能力を求めている面があり、この期待に答えられるような取組も続けていただきたい。 ・ 報道機関に向けた Web サイト等での広報だけではなく、地域の方にも届きやすいような手段による広報にも取り組んでいただきたい。 ・ 教職員も生徒も、学校の取組等についてメディアから多くの取材等を受けることによって、自尊心が高められるという面があるかもしれないが、あくまでも誠実に学び続けるという姿勢をこれからも大切にしてほしい。 以上、委員から貴重な御意見等をいただいた。 本校としては、委員からの御意見等を踏まえて今年度の学校運営を行っていく所存である。
次回開催予定日	令和８年２月５日（木）